かぶとう傳文

下

ロ 9
4455
2

ロ9
4455
2

かゝるとゝろの人傳受下ノ巻

○私い縁法やの仁義ゝ法師ゝだ拉正へ咎やむ職人あゝ。
いろくゝ、かせぐゝ、ぽゝ家と一新実ゝ。私ゝ業ゝ製ゝ書
京大文ゝ新續にあゝ。ぱゝつゝ力ゝ為ゝ所ゝ。貴和
けゝ法ゝ、ぬゝぎ法ゝ、たゝぐゝ。法ゝ三宗ゝ。ゝ。ゝて。ゝれゝ三ゝ文
を如ゝ来ゝ。ゝ私ゝ。素ゝ里ゝ天不方ゝ。私ゝ半ゝ強法ゝ多ゝ指
きゝ文ゝ三ゝ月ゝ出ゝ。ゝ。ゝ。

はゝそで。私を死なしやうに思へて。矢ぶくろ。二ぢめが体をとゝけりて。武人してきつぱりぽんと結ふまでとりまゝ
たゞく。私を更めて。彩ゝ世業。福性ぶりゝと。日を送ります。
盃。夜咲くもの。たゞく。清く心をおぢりませ。今朝ゝ
生まれ活伝受をとうけ結びます。れば。為を勤め職ゝと
かせぐ。人すやや。生せい出まるこのます。私は。家仕
ゝ。はゝ。生きで。不運ふちつく。まてい。ほをかもかれ
ゝのでおぢりまし。○義の目職ゝを情出ゝを不運ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

たゝやもの伝をかもよう人たゝるこをけゞや義ごゝ伝順ひて今ゝゝ
改めかせゞゞんんゞ○仁義ゞ曰君仰せ有和人なゝ千れゞ。
私と家ふかせゞゞゞ出ませれ○義の曰ゞふれゞ又かせゞ
心ゞでゞゞゞ○仁義ゞ曰私も世あゝ千あゝ不改ゝにあゝゝ
職人ゞ今ゝ文ゝゝゞ。一向心ゞ細くて働けゝせゞ今にを
三年あゝ世あれ銀ゞあゝゝ。心銀ゞゝんゝゝゝゝ。
ゞゞやれ事ゞあゝゝゝゝ

業づくれたるふる大家人なれども代を多く伝へなる。
絵ふけ書仮名へ行とそ元まづ〳〵さ時の衣装にて。
風流たうへで供まつしけるに西へふ。ある時まれやけるい海苔も
今を供まつして同じ風義毎く感心。梅ちと之で今へ
むしと身体もまつへる。すく女衣装を楽しとする
梅の花だ伝へてを白れ梅下ばべとて〇書を
曰れ恋天で将軍ちり。名く妙の伝とそしだ。けばき
ちを見てを身れるへ人女せて人れ衣装を見れだ
つきづ伝へて半〳〵私をかんる作。のこれ拍子まき梅を言い

海老の先まする事は冥加とたく先ませぬくしやけるた
〇夫あ聖そさ先にいつ梅ちれ〇妻の
曰今朝と門を通る女中れ衣装とんそうや内〳〵くしまく。
下まをふん別と二つ梅へ〳〵たいづきの衣装も見るすい紙
分と男へ恋れ〳〵一つを見いつきく。梅へ〳〵衣装を出ぐ
ちへべ〳〵て単身れ〳〵おけれれだ。紙ぐんす。紙ぐや。
夫毛織毛織をみさ内ぐれ異服衣裳ぐ皆く書ふて
梅あり〳〵れ夫を其へ感伝して妻ぐ徳を貴せとや。
それ先に伝へを見てるれ。伝物を守り身れほど知り

惟善以為寶

人をして實ふを者大豪家郎先女子ぐ〳〵を留人い桜ゐろう
汝を此者例よあづりて城主分の元ゆ〳〵てあろと
丈夫に今うもげんてかせぐべし○仁義の曰ちしく
厚情の恩あるぐり〳〵義ゆ〳〵實ふ金をとるいるば。
主殺し又学ふんを出べきう世主分い實ふ恩の元ゆ〳〵
ぐりてもこ美に生へてかせぐのゆ元ゆいまれ神とゆ
得ちと受けるふ○義の曰かせぐが運也運いかゆ〳〵
ゆに遣り汝よかせぐ学ゆてで早人相に全吏の要也
福ちがあるゆ

「かせぐ」は本て上ゆ品人之ゆ上運福し仕合
○先ふ好て得ゆ名を上人定て御存知
べし。牡丹ゆ山世ゆ今業平ゆ婦人こ女ゆ
好びまする紅涙清の辺の侍人橋井助こ出ゆ者い後
少ゆ紅ゆ涙ゆ。牡丹ゆ美いゆ月ゆ五月ゆ周縁ゆ知角
女性ゆ平にゆて出て仕来をするゆすゆを武い祇ゆ
ちゆ言ゆ石ゆ彩ゆ嶽ゆ肩ゆ山ゆいとゆ
ゆまゆ上ゆ命ゆ。武を
ゆ戸ゆそゆふゆ〳〵ゆ男人ゆトツチン〳〵北山
時ゆ月ゆ。ぬまゆ〳〵ゆ

の名をかけ。幕の内より男形の婦人。袖をそて袖をひかせ
いとやうに生れ付きまげ。とけきえ出せ。せうーき父母が意地
まて。四こ美肉ゆうてい。□□多へん面体にて。新人の
好むチヤリ貢献。文言吐人の女幸せ見きく共。オヲビ
かぐらかみを左よ辻売と神代えきませ。さんじと
抱者意知りにて。おそくく女性好抱。百○よ一こ色たる
九十九髪代遊色でとだざしで無てを吹かせ。
祝でを、かきくも根ひきくへ助くを助くい人で今
紙幸ーくと。おぐそ出ちとい出せかたも撰人幸

なるひくと。世話でいくくあれで。代百代の者と
を意知くじやかきけ者くやし。紙うまに内くれ
なんぐ抱者ぐ大原いみーて。色幸仕代名れで。枕出
き人立男出世。花ぬけく。紙を形に速代を内き
らくる秘密伝受とれ。○祝後すをて曰
伝受らあくもく。紙彼に内くまくい。紙く
決ゆ今紙をやまさぐよん。幸紙を大坂くやきへす
まえ紙でを彼でもはくる抱ぐや○助を意新を多
て曰今紙をやりてかきくれ。光幸紙に内のいく。

枕元に立まとしいとこの子供枕元にて金銭をつかひて。
西浦小雪もとより供雪のうしろ
事と浮る秘傳を移ぶかたり○扇の口金銭なく。
雪をかまいぶまぐこと上ふ未世業代の人こにまて悔を
こらまる偽変ちとふをいつぶ。そこ沈掘ろ。天竺
歌迦如来もいのだ以ふ。樹下石上の為い
坂だ者共をまぜ〜かぶきで大毒雪の
半人そもいやしき様のだぐ嘆ことを勇命をたる
うく。かきそく悔ぬいく今れ世まぐを云ふ

いぶら者ちと〜又唐れ汎文くみ浮ぐ代流れ世業
みく。多ぐれ金銭を苛ちと〜の人嘆をきろぶ九末美
雪れかきまことあれど若ぐ義者いぐた及ぐ小人
女をを落ちとひかきざらのいを人りれ
ろを好〜それ取貧悪良考ぶ備れの祖師方
徳者ぐ人悔れて方と枕ち。きこいれこのい人れ。
ち人への在五中ね業平や光源氏の美ちんぼれん
雪じやそ今の世れ娘や後ちけやだぐ嘆ぶ有経ぐて
後ちぐてきこいもせぐ佐渡の金山り沢沢

山水あるゝ所にて流れを汲人金山ふかきに釣い一句ふ
金山に世帯うきいとしいつゝ者をうん養とゝへだし
人の仕合今昔よと義貞はらわたをとゝへだし
岩永左馬ゝ介九変い故人ゝ武たゝ男一番の
時鳥仕てとゝ〻てとゝ仕て流でを懸く留山れ
辛ゝ大星由良之助い男れゝ市川市紅葉
をゝてとゝ様ゝい若人じゃ男女ゝ男ゝ
あゝいゝゝ若ゝて半枝を合ゝて元角人に懸
らしてゝ始しるゝ色ゝ丸おゝく賢を賢

ゝ色にかゝて道とまゝ引きせ男をみゝ
あゝとゝ助に行ふ紙みゝ紙をもゝ
徳ゝあゝ金ゝゝ不男でゝ天下人ゝ仁ふ帰
ゝゝ若ゝ一人ゝ名ゝて人間ゝ泥の用運
生ゝゝふ〇助ゝ恵かゝゝゝて日扱ゝ生れ呑
迷ゝゝかゝ拙者ゝいかゝゝゝ紙を決て懸ゝ
ゝにあゝ唯ゝゝふ言を決て。玄ゝゝ情ゝゝ
と。在れ人ゝ玄ゝゝれゝをふいかゝゝ世代ゝいゝ
ふゝ人ゝ実ふゝゝゝ形ひでゝゝ〇義経を

而て口淫をきけ。意いまだ之を知らざるの類、別紙。仁を
則心徳をなす。淫を意しいてたまで。おろかなる邪
淫をかぎるべすべて世人意しいへども色欲の事をもて
混雑して所をこそ色欲と雲淫の
まつひにして。四れ淫ふあるべそもく意しいへども。
淫をもの。アンポラポンのもくにあるべ古奇にも
意さびい人を心のなくはしのくこのもの化をもうだを
世和このれ如く意いまだ之を情則仁也人の実情なり。
意のこれある人をく狂と也。いつくとをもく

義をもて人をもて妻をもて貞をもて友をもて
もく信をもて飢て食紙をもて渇て水紙をもて。
実天理の実情にして。実情のみ余分なきを意
といふ故ふ意の心にある人ハ。ぬくもの化を如くかをもて人を
おこなくべ業を朋友百のうちぬくはふとをもん
ふ男ひのひて枕をかしぼんの人枕をたくせをまへ。
大意を世の中をて。意のこをる実情なり。又淫をぬ

意をたりとし笑ひてみるに大方が色欲なり。色欲は色不仁
不義なり。色の要るもの必失也。意い仁にして色は宝なり
勝也。意しと欲のまゝ色男なり。中く義
なりとて動るすがれどあり方秋師よりきけるなり。今
海がたなるかゝる心を治めてよくきゝたるよし。後晩
明帝吉野の御庭あり。せのうへに仕へまつる。奥の間
仕しとゝ。安ふましるる宮新義義のかゝれたるゝ
号氏はたをりけり。言はれ武野の師奥かれて色欲
者の非道の若くなるぶ。内侍をきゝひ挑まして

いつもり計よ紙用ひ。あまくこのたなをを巻り奥の間
仕をあざむきすりして言葉せうげひ
号。道をもぎそゆりなり。楠正行が沐浴の
乃面にて。はを乃ふけるなり。知男義俊の行るれば
伊勢あり。知るふを思ひすぐふけり。師匠家をとゝ
追取ひ。言葉をと云閑をきこれば。奥の内い
あふたなりふ。色のやくなげきふまづみる人姿いとほそと
にもたをやこ。抱きよ弱〇まつせば。ちりは仕会義
袋のうへに。正行なるさ。畳をは仕をも。帝へたり

まゐらせられて。帝御感なさせられ。正行が忠臣今に始め幸なり。しかるに其の母君。女の心ばせを海と富のむし添めよと。正行へ下しうる。其旨たうなる正行恐入て御辞退と達るに上なりける。帝を御ふ審よ御四位―正行よりきこしめしけるに義女は老れ人毎に好むもの。ふ海まで辞退申。我母は海深海で。やく御命ちうけるふ正行をうふ。有難涙にうひうしたぐ。ぞ。ぞ和歌添てなりけるそうして

いそをまたたちうしぐをあれ身はかりは松ちうとそ徒だん

山ぶきと御歌国有けまこと。帝を始め月卿雲ゐ一同ふ。切もく正行に歌ふたきけるに。其ちく長ちきれなる。正行ちうそ。御感涙ぞ。紙をとうりのひうる時。世ぞ行ちう。歌ぞ言ふ。ふ。ぱ。ぱを思ひ出て。女母よい。ひうしたやきく。又ほれ行ちうくて感涙ぞ。ちうる。涙ふく正行に。歌ふ。ちうて。紀忠臣にそ。ぞきけ。ちてよく。三代ぞふ通ぞ。人なり。今れ。ふ。正行ちうそて。父正成ぞ。忠臣をうけつぎ。帝人。勅命。をもちて。今日ふを。明日ふも。ぞ。ぞ。ぞたふ討死すべき。身ぞ行ぞ。我命いな紀りの

うて。ぞくさを者ふたぐ。ゆゑ。なるべし。今是人
たる四位を得て。勢ひたりとも。全れちぎりあれ
ば。ゆく。候の勢ひにて。今ひとを我すれば。いとやさふ
なくしび。野ゝ。無れ四位をうふ。ひぐ。もし。数ゝ人必定
ふまれ。かの。皆情ゆ。ぱ。ぱ。なる。憂員をみ千ゝ。ゆ。不
仮のふりにく。四位。代。れ。勇。なそれ。人。ものちぎり
ゆ。ゆ。おき。ゆ。ゆ。れ。ゆ。我ハ。ゆ。すゝ。ゆ。憂四位と
ゆ。ゆ。ゆ。

猶ほ[illegible]ふぐ[illegible]万感の来ることを[illegible]さらに抱いたり。
[illegible]仮の友で[illegible]人涙のもよすがの[illegible]人に[illegible]未性[illegible]れど。
[illegible]や[illegible]量でも法あり人に[illegible]ばかりみうや
[illegible]ども[illegible]きらふきらふ[illegible]ものも[illegible]氣湯[illegible]
[illegible]養育すべ[illegible]を好[illegible]生の美[illegible]見ぬきべ。美[illegible]
[illegible]心を[illegible]人拘れり或[illegible]放蕩たる家[illegible]見る
[illegible]又[illegible]養育[illegible]女房[illegible]人ありける[illegible]
常ふ[illegible]房ふ[illegible]人心[illegible]あそびもして或時[illegible]
[illegible]と拝[illegible]言[illegible]及びまれど。

[illegible]一番[illegible]者[illegible]だ。此女[illegible]
[illegible]ふたれ[illegible]彼[illegible]
[illegible]女房達[illegible]
人[illegible]はけ[illegible]の女房一人[illegible]
あそび[illegible]を[illegible]儀[illegible]
[illegible]見[illegible]言[illegible]
あ[illegible]見る[illegible]
[illegible]人を[illegible]
[illegible]人の女房[illegible]

美き寡女したりける。此時武友彼を見たりける。海老ふ
彼の人の女にたれたるどやて。物心ーけるめる。今彼ふ伺き
そやりの女したりしき事たりどる我海ぢたりふ嫉すーー心ふ
かるひーと逆人ぞりて。女房しせーーやけるに。見る大ふぐろ
ぐひて曰。伺ぞ〳〵小法師の女ぞ。伸人てたきたてて。
武友彼をもりて曰。彼女い海老ふいのぐ節代如くにくみ
ぢーられぐそれのぞたるぐず。養育宮もの人代年代余
ほどぢ行り。物ふ海彼女ともく人たりと心いりる。
事で。見る代曰行どそ事ふたり我ぞと上る代

泣くたたもれりぬ時かぞぶ我ぞりるつらぐ。なぞるるくぢう
そぬるりて。我を砕ーーぬ心ぐぐぬるるりどこれ落
女れるぞぞ代年りるんでたるるるる。又我を開抱ふく
砕ーーもるぬふ女の心きぞりるく。年更人代貞心たまぐど
宮殿ぬ十分たるぐずしぞ心の清浄放人ふおるる事有ぬ。
家を流めるぞ法をぢーゆる女房ぞ代ぬたりて形ふく。
又ぬる人の女ぬ養育ぬ彼るるるぞ代切代ぬる代
ぬる女房ぞ代不安んりて。ようくぢーーぢ代たるぶる
ぐぐるのぞとかるるけるる。海朋友を感ーけるる。

はゝの通りにうつくしく養やかなりしひとせ人がきりくとてゐ本体の命やまずして心ばえを
慰さもとうつ世心のとりたをたゝ心ぶずくに月花の言葉
にて是を人意ばり。今はむしとなりぬ。武野の国入
名ゆる武士夫婦むつまじく暮しけふば菜上元九
節。遊女ふたゝびみくるぶかくひ渋うぬまくぬいふ為
うけしぬきゆゑて妾をたゝけるが妾はあき者
みてさぬぐと本妻をゆくやうりくて菜を妾が
奸曲に迷ひ武日妻をちんぐくふのきりくて絶ふ

ゆゑを追ひ〳〵〳〵夫が家をぶく。
ばおりまりぬし沙汰おれ菜沢ゆゑをけく沙
すぐに妾ふあれ九九えくぐ菜沢ゆゑをけく沙
ゆゑ出ぬやたふとて沙がりろ〳〵れ調ぬを。
おてゆゑざるやしやけきて妻凡かりて涙を
うゑめぬ八ぶ為ばくい妾ふ九切のうへりれき。
さへを沙ゆゑ為りて仏て余の拘ばりて
ゆゑれんのんやしたばきゆゑ實情菜が肝
に通りて感涙ぬ妻をうびゐてあやまと

くやみ彼妻を追ちらでけ。僧尼のちぎりゆゑもけちぐ。京まもり〳〵第〳〵や。此事ゆゑ妻子遂ひ〳〵色欲ちら又妻ら出ひうし給うげを。世ふのうしふ有ひ〳〵い惻隱の心て色すふち意ちら又妻ら実情貞心ふ感じ。我胆を悔しを。落〳〵義悪そくのんの心て。意れ言る人情ちや。意の心れある人ふ。〳〵又人の情をちらかよ。人ふを又〳〵生せちれちら。

方をつて人れいさて知ひら言うせ言かるん

此和女ふ貞婦貞ふ言ひ〳〵我夫の上ら入ふ。たまひて留をちやしに。五月ゆゑ〳〵さびき日いしん神〳〵おひ〳〵ふのまりに夫ら妻ちるゆを。和〳〵ゆ〳〵夫れ留をして。ゆうきるれさびひりちんと。酒やれをの初んごろに〳〵の人山ちと。ちみて送りけるふ妻を貞ふ情ふ〳〵ゆを。ちつとき貞ふを感じ。ちうひて。ちちり〳〵大切ふ。ひちり人きるとひんしふ貞ふ言ふ実情言ばつ。すいはゞをふして世男の女れ潔しゆて人今に

きてい者ども乾坤をうく合点し。
海を人ふかまれうくば。縁の言の波切をまで。
言しを歌れ者ども名をせずしてかたをを歌ふ
おげうく事をおそうべし。せふも歌ひ勇武
かろば人をおこふひ冥者をもづう貧窮
ひうう徒を損じ。名誉けげ災とまり。紀言を
うう根本ましてカ子ナフナルの毒業功績
書れ事一番の事にあるれまぢ。それぐ海
部はみくぐおうう上ふを物おうべし

○助うを威ぢして曰。清ふ本ひく我ぐ
事れ人ふ物らうう伝受ひ。
又ふ人ふ物ふ伝受ひ。
まして○箱の曰事ふを限ふ。
ふ松い訳を是すうう大いなる事いふけまぢ人ふ物ふ
人得伝受ひ。
訳切ふれくひつを是ふ。一者
言く方言の長事ふうて。張本人無事く
是ぢすぐにカ子モウカルの功績ふて。冥運出世の

傳受ありしを考へ合せ愚案をくわへ

かひこうろく 傳受 下巻終

脇坂義堂述

107
ト28
ロ

諸書物類製本所

京都書林 津逮堂

三條通御幸町角

大谷 右野屋仁兵衛板